2019 年 7 月 14 日（日）静岡県・富士スピードウェイで 2019 年シリーズ第 4 戦の全日本スーパーフォーミュラ選手権が開催された。

7 月 13 日（予選／13 時 20 分時点）
天候：雨
コースコンディション：ウェット
気温：22℃　路面温度：24℃

2019 年シリーズの折り返し地点となる今大会。日本列島の梅雨明けが昨年より遅く、前線の影響で事前の天気予報通り安定しない天候となった予選日の富士スピードウェイだったが、リアルレーシングは後半戦に向けて気持ちも新たに臨んだ。
午前中のフリー走行はドライコンディションで行われたものの、予選前から降り始めた雨によりウェット宣言がなされ、#17 塚越広大もレインタイヤを装着し、12 台に絞られる予選 Q1 セッションをスタート。だが予選開始早々に他車がスピンを喫しマシンをコースサイドに停めたために赤旗が掲出される。このセッション開始数分後の赤旗掲出という状況に、Q1の 20 分を再度最初からやり直すという決定が競技団により下されたため、15 時から時計を 20 分に巻き戻した形で再スタートすることとなった。再スタートした Q1 で開始早々コースインした塚越は路面状況とマシンの状態を確認しつつ 1 周の周回を経て、翌 2 周目にベストタイムとなる 1’37.628 を計測する。その後ピットインした塚越はマシンの微調整と共にウェットのニュータイヤに履き替え、残り時間 8 分弱というところで再度コースイン。タイムアップを目指して何度となくアタックを試みた塚越は、雨足が強くなったコース状態の影響もあり前半のベストからタイムを更新することができなかったものの 8 位という結果にて Q1 を終了し、Q2 へ進出することとなった。
インターバルを経て迎えた 7 分間の Q2 セッションは Q1 より雨足が弱まった状態でスタート。開始早々にコースインした塚越はマシンの状態を整え 3 周目にフルアタックに入ったが、1’39.649 というタイムでセッションを終了することとなり、Q3 への進出は叶わず、翌日の決勝グリッドを 11 番手から出走することとなった。

7 月 14 日（決勝／13 時 45 時点）
天候：雨
コースコンディション：ウェット
気温：22℃　路面温度：23℃

7 月 14 日（日）決勝日。午前中のフリー走行をウェットコンディションで終えたものの、昼頃には天候が回復し、決勝レース直前には路面が乾き始めた為、一時決勝レースはドライコンディションで行われるかと思われたものの、梅雨まっさかりの富士スピードウェイの天候はそれを許さ

ず、直前のウォームアップ走行を終えると、小雨が降り始め天気は朝の状態へと逆戻りしてしまう。天候の悪化によりセーフティカースタートが決定され、#17 塚越もレインタイヤを装着しスタートの瞬間を待つ。13 時 45 分になり第 4 戦の決勝レースがスタート。そして 3 周を終了したところでセーフティーカーがピットロードに入り、本格的なレースがスタートした。雨が降り続く中でレースをスタートさせた塚越は、実質のオープニングラップとなる 4 周目を同 11 番手で守りきるものの、翌周には 12 位に順位を落としてしまう。その後はただ、がむしゃらな程に前車を追い抜くべく、諦めない走りを見せ続ける塚越だったが、どんどん悪化していくコースコンディションの中でマシンコンディションはコースとフィットすることはなく、厳しい走りを続けることとなる。コース上は霧が立ちこめ視界不良な状態のままレースは続く。後半に入ったのち、34 周目の終わりになるとタイヤ交換のためピットインした塚越は、18 番手でマシンをコースに戻す。残り周回で巻き返しを図るべく他車の隙を探しながら走行を続ける塚越だったが、その後も天候は回復せず、そのまま厳しい走りが続くこととなる。そして本来ならば 55 周で争われる予定であった今大会の決勝レースは、その 55 周目に到達する前に規定終了時間を迎え、53 周目がこのレースの最終ラップとなった結果、塚越は 18 番手のままでチェッカーを受けることとなった。

シリーズ中盤のレースとなる第 4 戦の富士スピードウェイを終えましたが、よりよい結果を皆さまにご報告できず、悔しさだけが残るレースとなりました。
次戦は梅雨が明け天候も良好な中でレースを迎えられることを切に願い、皆さまのご期待に応えるべく緊張感を高め、気合を入れなおして後半戦のレースにて結果を残せるよう、チーム一丸となって戦って参ります。